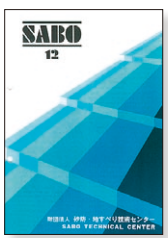


特集1 100号のあゆみ——「SABO」から「sabo」へ

昭和50年のセンター設立に遅れること10か月、賛助会員会報として誕生した「SABO」が、現在皆様のお手元に届く「sabo」へと移りゆく姿を年表にまとめ、歴代の御執筆いただいた方々に「「sabo」とわたし」と題してご感想や思い出、今後「sabo」に望むことなどを語っていただきました。

当初モノクロB5判、事業報告や名簿などおもに会委員向けの情報を不定期に発信していましたが、公文書がA4判に変更されたのを機に50号から「SABO」も判を変更、60号の編集後記には外部委員を交えて編集局の大幅改変をはかり、センターの業務内容と最新技術の紹介にシフトしていきたい旨が記されています。この頃からPR誌としての意味合いに力点が置かれていくようです。それに伴い定期的に公開されていた事業報告や新年度計画は縮小され、カラー写真やエッセイ的な記事も増えて「読みやすさ」を意識した編集となり、現在の「sabo」の原型が整います。またセンターの活動の拡大と世相を反映するかのようにより、国際化や情報処理、環境などに関する記事も増えていきます。当時の世相と表紙の変遷もお楽しみ下さい。

発行年	発行月	vol.	主な「sabo」記事	仕様
1975年 (昭和50年)	7月			
1976年 (昭和51年)	4月	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「SABO」創刊に際して ・センターの今後の抱負 	戸田 福三郎 谷 勲
1977年 (昭和52年)	3月	2	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ 	中村 二郎
	10月	3	<ul style="list-style-type: none"> ・有珠山噴火と今後の対策 ・地すべり予測手法の開発 ・スチロールで外面を覆ったのり枠工 	北海道開発庁 藤田 壽雄 安江 朝光
1978年 (昭和53年)	7月	4	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の砂防と国債技術協力 	松下 忠洋
	12月	5	<ul style="list-style-type: none"> ・有珠山周辺調査記 	建設省土木研究所
1979年 (昭和54年)	発行なし			
1980年 (昭和55年)	1月	6	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和54年度受託調査の概要 	
1981年 (昭和56年)	7月	7	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和55年度事業報告 	
	11月	8		
1982年 (昭和57年)	8月	9	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和56年度事業報告 ・昭和57年度事業計画 	
	1月	10		
1983年 (昭和58年)	11月	11	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和57年度事業報告 ・昭和58年度事業計画 	
	1月	12		
1984年 (昭和59年)	7月	13	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和58年度事業報告 ・昭和59年度事業計画 	収支決算
	10月	14	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和59年度事業報告 ・昭和60年度事業計画 	収支及び資産概要
1985年 (昭和60年)	7月	15	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和60年度事業報告 ・昭和61年度事業計画 	
	11月	16		
1987年 (昭和62年)	1月	17		
	6月	18	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和61年度事業報告 ・昭和62年度事業計画 	収支及び資産概要
	9月	19	<ul style="list-style-type: none"> ・茶臼山地すべりの思い出 	阿座上 新吾
1988年 (昭和63年)	1月	20		
	6月	21	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和62年度事業報告 ・昭和63年度事業計画 	
1989年 (平成元年)	9月	22		
	1月	23		
	6月	24	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和天皇のご葬儀に参列して ・昭和62年度事業報告 ・昭和63年度事業計画 	阿座上 新吾
1990年 (平成2年)	9月	25		
	1月	26		
	3月	27		
	6月	28	<ul style="list-style-type: none"> ・平成元年度事業報告 ・平成2年度事業計画 	
1991年 (平成3年)	10月	29	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャワ・クルー火山の小爆発による砂防施設の災害とその問題点 	廣住 富夫
	1月	30		
	3月	31	<ul style="list-style-type: none"> ・砂防・砂防教育は今 ・土石流氾濫シミュレーションについて 	太田 猛彦 宮本 邦明
1991年 (平成3年)	6月	32	<ul style="list-style-type: none"> ・平成2年度事業報告 ・平成3年度事業計画 	
	9月	33	<ul style="list-style-type: none"> ・インドネシア火山砂防技術センターだより① 	阿部 宗平



- 右ページ参照
- 字は国内の主な土砂災害
- ● ● ● それぞれ関連記事
- 字は外国の災害

主な砂防関連の動きと土砂災害	できごと世相等
<ul style="list-style-type: none"> ・(財)砂防・地すべり技術センター設立 	<ul style="list-style-type: none"> ・サイゴン陥落 ・沖縄海洋博開催
<ul style="list-style-type: none"> ・ジョグジャカルタ・メラヒ山プロジェクト発足 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロッキード事件発覚
	<ul style="list-style-type: none"> ・200海里水域法施行 ・日航機ハイジャック
<ul style="list-style-type: none"> ・宮城県沖地震 ・樽前山噴火 ・妙高山東斜面土石流 	<ul style="list-style-type: none"> ・日中友好条約調印 ・成田空港開港
	<ul style="list-style-type: none"> ・大学共通一次試験実施 ・第2次オイルショック
	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョンレノン射殺
<ul style="list-style-type: none"> ・中東家地すべり(新潟県) 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャールズ英皇太子ダイアナ嬢と結婚
<ul style="list-style-type: none"> ・長崎大水害 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホテルニュージャパン火災 ・フォークランド紛争勃発
<ul style="list-style-type: none"> ・鋼製砂防構造物研究会実施 ・島根県西部水害 ・三宅島噴火 ・土砂災害防止月間設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京ディズニーランド開園 ・大韓航空機撃墜 ・ロッキード田中元首相有罪
<ul style="list-style-type: none"> ・海外研修生受け入れ始める ・長野県西部地震 ・大滝村地すべり(長野県) 	<ul style="list-style-type: none"> ・グリコ森永事件
<ul style="list-style-type: none"> ・地附山地すべり(長野県) ・玉ノ木地すべり(新潟県) 	<ul style="list-style-type: none"> ・つくば科学万博 ・日航ジャンボ機墜落事故
<ul style="list-style-type: none"> ・鋼製砂防構造物設計便覧発行 ・伊豆大島・三原山噴火災害 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京サミット ・チェルノブイリ原発事故
	<ul style="list-style-type: none"> ・JR発足 ・ニューヨーク株式暴落
	<ul style="list-style-type: none"> ・青函トンネル開業 ・瀬戸大橋開橋
	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和天皇崩御
	<ul style="list-style-type: none"> ・平成へ改元 ・中国天安門事件 ・ベルリンの壁崩壊
<ul style="list-style-type: none"> ・民間建設技術の技術審査証明制度実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試センター実施 ・東西ドイツ統一
<ul style="list-style-type: none"> ・雲仙・普賢岳噴火 ・ピナツポ火山噴火 ・(財)砂防フロンティア整備推進機構発足 	<ul style="list-style-type: none"> ・湾岸戦争勃発 ・ソ連解体

「sabo」とわたし



中村 二郎様

ご執筆号：第2号(昭和52年)等
ご執筆当時：建設省河川局砂防部長

機関誌「sabo」で

毎号楽しみにしている記事

寄る年波で細字に弱くなり読解力も衰えましたが、巻頭言、論説TOPICSを中心にセンターの広範な活躍と砂防技術の日進月歩に興味を持ち読ませていただいております。

「sabo」について

率直なご感想

設立当初はセンターの仕事も受託業務が主体で限られており、従って「sabo」も業務の説明など簡単な内容のものでありましたが、現在は当時とは雲泥の差で内容も豊富で充実し、文化的薫りのする立派なものとなりました。あらためて編集委員会諸氏のご努力に敬意を表したいと思います。

ただ戦後赤木先生の厳しい指導のもと、砂防時代を過ごしてきた老人の戯れ言ではありますが、砂防事業は100%国民の税金によって施行される純粋な国家の公共事業であります。従って言葉ははしよりますが砂防事業の技術部門の一翼を担う当センターは民

間の研究機関とは異なりすべて砂防行政と一体の公的なものと私は理解しております。そういう観点からセンターの事業の進め方はもちろん、「sabo」のあり方もセンターの設立目的に沿った砂防行政の一環としてより一層節度あるものであって欲しいと思います。

今後の「sabo」に期待すること

土砂災害が発生するたびに、土砂災害対策の遅れに対する国の責任が、声高に指摘されています。たしかに土砂災害から国民の生命財産を完全に防止することは至難の業で遅れも目立ちます。

従って砂防事業が国家百年の大計としてより一層強力に推進する必要があることはいうまでもありません。ただ憂慮されることは関係者は別として国民全体からみれば、砂防に対する認識、特に砂防事業、砂防技術に対する認識と理解の低いことは残念ながら今も昔も変わらないと思います。従って公共事業の地方分権が論議されるなかで砂防の着実な発展を期するためには砂防を志す技術者はもとより一般国民に砂防事業の歴史と現状を広くPRするのは必須のことです。

この意味で砂防技術の一翼を担うセンターの任務もますます大きくなるものと思います。機関誌「sabo」がどのような範囲に頒布され、どのように活用され、成果を上げていくかについて詳しくは存じませんが、センターの目的に沿って内容の充実を図り、より一層実質的な有意義なものであって欲しいと思います。

「sabo」とわたし



藤田 壽雄様

ご執筆号：第3号(昭和52年)等
ご執筆当時の所属：建設省土木研究所 地すべり研究室長

機関誌「sabo」で

毎号楽しみにしている記事

他分野の識者による「連載エッセイ」は砂防あるいは土砂災害が社会のなかでどのような受け止め方をされているかを窺い知ることができる貴重な場である。

「sabo」について

率直なご感想

時宜に応じた話題を取り上げて、やさしく解説する論説や、砂防技術のルーツを歴史的資料をひもといてアプローチするなどの試みは、新技術と温故知新の面

白さを読者に伝えていると思われる。

しかし時には海外技術ノートがページを取りすぎている号もある。海外への貢献や災害事例報告は重要ではあるが、本誌の国内読者にはいささか関心の薄い報告が重なって搭載されてはいないだろうか？

今後の「sabo」に期待すること

関連する学会、自治体、協会から刊行される出版物が多くあるなかで、特色ある編集をするのはなかなか大変なご苦労だと推察いたします。否応なく地方分権化が進むこの世の中で、災害対応はともかくとして通常砂防・地すべり対策事業もこの渦中に巻き込まれることが想定されますので、砂防情報という意味では地方自治体から発信されるさまざまな技術情報をとりまとめていく必要があります。これまでは本省からの情報に頼っていましたが、災害発生の局地化を踏まえた地方自治体の技術的取り組み方を「sabo」が把握していただきたいものです。

特集1 100号のあゆみ——「SABO」から「sabo」へ

発行年	発行月	vol.	主な「sabo」記事	仕様	
1992年 (平成4年)	1月	34	<ul style="list-style-type: none"> ・「(財)砂防フロンティア整備推進機構」設立について ・ネパール治水砂防技術センター設立長期調査に参加して ・インドネシア火山砂防技術センターだより② ・砂防と環境保全 	友松 靖夫 阿部 彦七 阿部 宗平 新谷 融	
	4月	35	<ul style="list-style-type: none"> ・インドネシア火山砂防技術センターだより③ ・環境は気配りから 	阿部 宗平 設楽 武久	
	6月	36	<ul style="list-style-type: none"> ・平成3年度事業報告 ・平成4年度事業計画 		
	9月	37	<ul style="list-style-type: none"> ・民間開発砂防技術の紹介① ・研究開発助成制度の創設及び助成課題 		
1993年 (平成5年)	1月	38	<ul style="list-style-type: none"> ・砂防と環境 	廣住 富夫	
	3月	39	<ul style="list-style-type: none"> ・高度経済成長主義への疑問 	土岐 敬祐	
	6月	40	<ul style="list-style-type: none"> ・平成4年度事業報告 ・平成5年度事業計画 		
	9月	41	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題について 	五十君 旦弘	
1994年 (平成6年)	1月	42	<ul style="list-style-type: none"> ・ガलगン火口湖周辺の斜面安定調査 ・超高層住宅に住んで——ある管理組合理事長頼末記 	藤田 壽雄 岸田 弘	
	3月	43	<ul style="list-style-type: none"> ・フィリピン・マヨン火山に関する調査報告 	菊井 稔宏	
	6月	44	<ul style="list-style-type: none"> ・平成5年度事業報告 ・平成6年度事業計画 		
	9月	45	<ul style="list-style-type: none"> ・雲仙水無川における堆積土砂除去の無人化施工について ・木の種を播く 	火山砂防部 安中 敏夫	
1995年 (平成7年)	1月	46	<ul style="list-style-type: none"> ・入試成績の良い学生は優秀か? ・急傾斜地崩壊防止工事の計画について ・合成開口レーダーを用いた地形計測手法の開発 	鈴木 勇二 安江 朝光 阿部 宗平他	
	6月	47			
	6月	48	<ul style="list-style-type: none"> ・平成6年度事業報告 ・平成7年度事業計画 		
	9月	49			
1996年 (平成8年)	1月	50			A4判
	3月	51	<ul style="list-style-type: none"> ・九重火山群硫黄山噴火緊急調査 ・携帯電話・FAX / カラーコピー 	伊藤 英之 杉山 俊宏	
	6月	52	<ul style="list-style-type: none"> ・平成7年度事業報告 ・平成8年度事業計画 		
	9月	53	<ul style="list-style-type: none"> ・雲仙・普賢岳の火山活動と砂防事業 ・自然とともに——雑感 	座談会 古谷 尊彦	
1997年 (平成9年)	1月	54	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県南部地震にかかる土石流危険渓流調査 ・富山県の地すべりを尋ねて——国見地すべり 	座談会 本多 孝夫	
	3月	55	<ul style="list-style-type: none"> ・1993年鹿児島豪雨災害における警戒避難の教訓と問題点 ・山形県の地すべりを尋ねて——大網地区と地すべり ・今溪流環境対策に何が求められているか 	下川 悦郎 辻間 隆夫 座談会	
	6月	56	<ul style="list-style-type: none"> ・平成8年度事業報告 ・平成9年度事業計画 		
	9月	57	<ul style="list-style-type: none"> ・稀な現象による土砂災害——蒲原沢土石流災害の教訓 ・忘れられない地すべり「茶臼山地すべり」 	丸井 英明 桑原 勉	
1998年 (平成10年)	1月	58			
	3月	59	<ul style="list-style-type: none"> ・小泊地すべりについて 		
	6月	60	<ul style="list-style-type: none"> ・平成9年度事業報告 ・平成10年度事業計画 		

主な砂防関連の動きと土砂災害

できごと世相等

• 研究開発助成制度の創設

- 地球サミット開催
- 毛利衛さんエンデバーで宇宙へ

• カリフォルニア大地震

- Jリーグ開幕
- 皇太子ご成婚
- レインボーブリッジ開通
- 非自民連立内閣発足

• 阪神・淡路大震災

• 新潟県7月豪雨災害

- 自社さ連立政権で自民復
- 松本サリン事件
- 関西国際空港開港

• 地下鉄サリン事件

• Windows95日本発売

• ホンジュラス土砂災害

- ベルー日本大使公邸事件
- 携帯電話急増

- 鄧小平死去
- 香港返還
- ダイアナ妃事故死
- アジア通貨危機
- 山一証券自主廃業
- 京都議定書採択

- 長野冬季オリンピック
- 明石海峡大橋開通
- 和歌山カレー事件
- ワールドカップ初出場
- テポドン1号発射実験
- イラク空爆

「sabo」とわたし



安江 朝光様

ご執筆号：第3号(昭和52年)等
ご執筆当時の所属：建設省土木研究所 急傾斜地崩壊研究室長

機関誌「sabo」で
毎号楽しみにしている記事
巻頭言、論説、海外事情
「sabo」について
率直なご感想

私が初めて投稿した第3号のコピー

を送付していただいたが、この当時にくらべると内容、体裁、写真の質等にわたって大変立派になっている。集まった原稿を適当に組み合わせている感があり、各号によってジャンルに偏りが見られる。これは本来の仕事が忙しい方々が『sabo』の原稿執筆を依頼されているのが主な理由だとすると致し方ないことだと思う。

今後の「sabo」に期待すること

時期を得たテーマについて特集号を時々組み、中身のある内容にしていたければ大変ありがたい。単会誌、業界新聞に触れる機会が少ないので、砂防関連のニュースバリューのある事柄についてはページ数は少なくともよいので、できるだけ掲載して欲しい。

「sabo」とわたし



太田 猛彦様

ご執筆号：第31号(平成3年)等
ご執筆当時の所属：東京大学農学部教授「新砂防」編集委員長

機関誌「sabo」で
毎号楽しみにしている記事
技術ノート
「sabo」について
率直なご感想

砂防の研究現場から少し距離を置くような立場になっている現在、砂防事業の技術面での現状を包括的に理解するのに役立っており、ご送付いただいていることに感謝したい。

過去1年間の記事では、「既設砂防堰堤の機能回復方法について」や「微地形を生かした防災計画」などの技術ノートが、最近の砂防技術を自分なりにフォローするのに役立った。

今後の「sabo」に期待すること

技術ノートのみでなく論説や速報・

トピックスにおいても、災害の発生メカニズムや対策技術に関するやさしくかつ充実した記事の掲載を望みたい。内容のレベルは砂防・地すべり研究の進歩をふまえたものであり、かつ学会誌よりは平易であって欲しい。

豪雨災害等、いわゆる異常災害が増加しているといわれている現在、山間の可住地はすべて数百年あるいは数千年間隔で発生する土砂移動現象の結果として形成された緩斜面の上であることをあらためて国民に報せていく必要がある。つまり、そのような規模の土砂移動現象が起これば必ず被災する場所に私たちは住んでいるのである。土砂災害防止法の有効性をあらためて証明した今年の災害を思うとき、このような観点も含めて砂防・地すべりに関する防災技術を発展させ、その成果を誌面に反映させてほしい。

なお、「sabo」ではないが、貴センターが毎年発行している『土砂災害の実態』の刊行事業に敬意を表す。とかく散逸しがちな過去の災害も記録を体系的にとりまとめたものとして、その学術的価値は現在でも高いが、今後ますます高まるであろう。内容については、個々の土砂災害の状況の科学的記述の項目を一層充実させてほしい。

特集1 100号のあゆみ——「SABO」から「sabo」へ

発行年	発行月	vol.	主な「sabo」記事	仕様	
1999年 (平成11年)	2月	61	<ul style="list-style-type: none"> 平成10年土砂災害におけるソフト対策上の課題について 平成10年6月天草地方土砂災害調査報告 平成10年佐渡地方土砂災害報告 岩手県火山防災マップの作成について 砂防GIS構築に向けて 	土砂災害ソフト対策研究会 総合防災部プロジェクト 流域土砂整備研究会	
	6月	62	<ul style="list-style-type: none"> 平成10年ホンジュラス災害調査団報告 	細川 容宏	
	10月	63	<ul style="list-style-type: none"> テグシガルバ市(ホンジュラス)ソフト地すべりの機構と対策 誠意ある聞き込み調査がソフト対策の充実につながる 	藤田 壽雄 他 瀬尾 克美	
2000年 (平成12年)	1月	64	<ul style="list-style-type: none"> 1999年台湾地震土砂災害現地調査に参加して 6.29広島県土砂災害について 平成11年9月岐阜県で発生した台風16号による土砂災害調査報告 	黒川 興及 三宅 美輝 土砂災害ソフト対策研究会	
	3月	65	<ul style="list-style-type: none"> 韓国の土砂災害1998年の事例を中心に ベネズエラ集中豪雨災害緊急対策専門家報告 生物多様性と水族館 	周藤 利一 鶴木 拓也 堀 由紀子	
	6月	66	<ul style="list-style-type: none"> ベネズエラの土石流災害 韓国の土砂災害1998年の事例を中心に 	吉松 弘行 周藤 利一	
	9月	67	<ul style="list-style-type: none"> 有珠山2000年噴火と砂防の取り組み 三宅島2000年火山活動とその対応 地域住民にわかりやすい防災対応—地域防災学習マップの作成 	安養寺 信夫 総合防災部プロジェクト 土砂災害ソフト対策研究会	
2001年 (平成13年)	1月	68	<ul style="list-style-type: none"> 21世紀を迎えて 平成12年鳥取西部地震速報 2000.9.12上矢作町の土砂災害における情報伝達と住民ニーズ—現地聞き込み調査報告 	友松 靖夫 土砂災害ソフト対策研究会	
	3月	69	<ul style="list-style-type: none"> 火山災害に思う 2000年10月発生のイタリア北西部災害について 	荒牧 重雄 瀬尾 克美	
	7月	70	<ul style="list-style-type: none"> 三宅島における2000年噴火後の土砂流出実態 ダムは不要か 	総合防災部プロジェクト 新 寿夫	
	10月	71	<ul style="list-style-type: none"> 21世紀は「環境の変化」 土砂災害防止のためのソフト対策のあり方について 	秋山 哲朗 座談会	
2002年 (平成14年)	1月	72	<ul style="list-style-type: none"> パワーシフト 	友松 靖夫	
	6月	73	<ul style="list-style-type: none"> 安全と環境の21世紀 	岡本 正男	
2003年 (平成15年)	2月	74	<ul style="list-style-type: none"> ピナツボ火山砂防事業の現状について 	赤松 巧一	
	6月	75	<ul style="list-style-type: none"> J-SAS活用検討会開催について 		
	10月	76			
2004年 (平成16年)	1月	77	<ul style="list-style-type: none"> 韓国土砂災害現地視察調査団2003参加報告 情報化社旗の進展に呼応する火山砂防事業の高度化に向けて 	視察調査団 松井 宗廣	
	4月	78	<ul style="list-style-type: none"> 魚類の保護と砂防えん堤 	高橋 剛一郎	
	7月	79	<ul style="list-style-type: none"> 1999年台湾集集大地震後の土砂災害の調査研究 水俣豪雨災害の検証と当面の対応 6.29災害から5年都市を襲った土石流とその対策 桜島における土石流対策 	下川 悦郎 江口 隆一 吉村 元吾 永吉 修平	
			<ul style="list-style-type: none"> 土石流に対するソフト対策 石積み堰堤を追いかけて(上) 	菊井 稔宏 友松 靖夫	
			<ul style="list-style-type: none"> 土石流災害と危機管理—水俣土石流災害を例として パワカラエン山巨大崩壊調査報告 	池谷 浩 緊急調査団	
	10月	80	<ul style="list-style-type: none"> 安倍川流域大島堰堤における全流砂量観測報告(H16年台風6号による出水) 石積み堰堤を追いかけて(下) 	近藤 玲次 友松 靖夫	

主な砂防関連の動きと土砂災害

できごと世相等

・台湾集集地震

・2000年問題話題に

・ベネズエラ土石流災害
・広島県6.29土砂災害
・台風16号による岐阜県土砂災害

・東海村臨界事故

・有珠山噴火災害
・三宅島噴火災害

・九州沖縄サミット開催
・2000円札発行

・鳥取県西部地震災害

・世田谷一家殺害事件

・中央省庁再編 国土交通省に
・芸予地震地震災害

・付属池田小事件

・9.11同時多発テロ

・台風15号による韓国土砂災害

・ユーロ流通導入
・FIFAワールドカップ共催
・ノーベル賞ダブル受賞

・海外研修生個別研修受け入れ
・水俣土石流災害

・イラク戦争開戦
・日本郵政公社発足
・SARS流行

・新潟県中越地震災害

・九州新幹線開業

・スマトラ島地震・インド洋大津波

「sabo」とわたし



友松 靖夫様

ご執筆号：第34号(平成4年)等
ご執筆当時の所属：(財)砂防フロンティア整備推進機構専務理事

機関誌「sabo」で
毎号楽しみにしている記事

歴史探訪や連載エッセイ、界限食へある考と市ヶ谷だより。

「sabo」について

率直なご感想

以前とくらべればずいぶんと洗練された誌面構成になり、校正も行き届い

ていると思います。

学術書ではないので難しい数式や技術論はなるべく避けたほうがよいと思います。

表紙は機関誌の顔です。地球規模での珍しい映像を楽しみにしています。

今後の「sabo」に
期待すること

次のような課題について歴史的事実とその後の変遷を検証し、砂防事業の役割や地域社会に貢献する事例をシリーズ(1年単位)で取り上げていただくことを期待します。

- ・緑の復元特に中部、近畿、中国にかけて)
- ・荒廃溪流の今昔(たとえば逆瀬川、大谷川、常願寺川、六甲諸河川等)
- ・大規模崩壊地のその後
- ・火山地域の変貌 等々

「sabo」とわたし



阿部 宗平様

ご執筆号：第33号(平成3年)等
ご執筆当時の所属：建設省土木研究所 砂防研究室主任研究員

機関誌「sabo」で
毎号楽しみにしている記事

連続エッセイ、海外情報、歴史探訪は、毎号の掲載内容が豊富で楽しみにしている。

「sabo」について

率直なご感想

1976(昭和51)年4月の創刊以来1990年頃まで、機関誌「sabo」は、技術ノート、各種委員会報告や受託調査研究など、STCの事業報告を主とする編集内容であったと記憶している。これは、ハード対策を主体とするその当時の施策と砂防事業概要を知るうえで、貴重な記録だといえる。現在は、砂防技術に関する内容だけでなく、エッセイ、海外事情、歴史探訪等、興味ある内容が編集されているが、1998

年以降、STCの事業報告に関する情報がない。STCが受注した砂防事業の経年的推移に関心を寄せる読者に対して、また、STCの業務内容を公表する場として、事業報告に関する記事があっても良いのではないだろうか。

国際協力事業団の長期専門家としてインドネシア共和国、火山砂防技術センター(VSTC)に派遣中の1990～92年の間、機関誌「sabo」に「インドネシア火山砂防技術センター(VSTC)便り」を連載させていただいた。

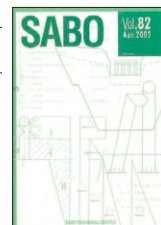
VSTC便りでは、技術移転の内容、活動報告のほか、カウンターパートや他機関の職員と友好を深める私的交流、VSTCの所在地であるジョクジャカルタ近郊の歴史、風土、地方に伝わる祭典、などについて「sabo」の読者に紹介した。それまでは、海外紀行を含めた海外情報に関する記事が数例あるだけで、この種の記事は掲載されていない。帰国後、数人からVSTC便りについて好評をいただいたのが嬉しかった。

今後の「sabo」に
期待すること

「sabo」の読者を対象に、今後とも学術機関誌、他機関の機関誌等とは異なる「sabo」の独自性を保持する機関誌であることを期待する。

特集1 100号のあゆみ——「SABO」から「sabo」へ

発行年	発行月	vol.	主な「sabo」記事	仕様
2005年 (平成17年)	1月	81	・平成16年新潟県中越地震における当センターの対応について	企画部
	4月	82	・創立30周年記念号	
	7月	83	・創立30周年を迎えて ・大規模地すべり対策に取り組む ・平成15年福岡県西部で発生した山腹崩壊の再発性	友松 靖夫 藤田 壽雄 中村 良光 他
	10月	84	・より充実した国際砂防交流に向けて ・7.11豪雨災害から10年を経過して ・火山ハザードマップと火山防災対策について	岡本 正男 長谷川賢一 総合防災部
2006年 (平成18年)	1月	85		
	4月	86	・自然の景観を大切にしたい ・雲仙・普賢岳災害から15年	荒牧 重雄 大林 和幸
	7月	87	・パキスタン北部地震による斜面災害の概要	八木 浩司 千木 良雅弘
	10月	88	・ジャワ島中部地震及びムラビ山噴火に伴う土砂災害調査について	櫻井 亘
2007年 (平成19年)	1月	89	・韓国土砂災害調査団 ・フィリピン・ピナツボ火山災害緊急復旧事業視察レポート	柁木 敏仁 本田 健
	4月	90	・身辺雑記 ・基ノ助谷地すべりといくつかの付加体のデコルマンゾーンとの比較研究 ・フィリピンマヨン火山泥流災害調査に参加して	安江 朝光 小川 勇二郎(講演) 万膳 英彦
	7月	91	・中東の国ヨルダンと砂防	池谷 浩
	10月	92	・地すべりのハード対策(インタビュー) ・雲仙・普賢岳溶岩ドーム監視体制	藤田 壽雄 秦 耕二
2008年 (平成20年)	1月	93	・長野県岡谷市土石流災害における崩壊発生斜面の地盤特性	綱木 亮介(講演)
	4月	94	・土石流・流木対策の技術指針解説および土石流・流木対策設計技術・指針の解説ポイント	小山内 信智
			・浅間山ロールプレイング方式防災訓練について	総合防災部
	7月	95	・中国四川大地震防災対応への技術支援 ・グアテマラの土砂災害を尋ねて ・ヨルダン乾燥地砂防プロジェクト派遣報告	池谷 浩 近藤 浩一 池田 暁彦
	10月	96	・岩手・宮城内陸地震による大規模土砂災害の発生と砂防技術 ・中国四川大地震による唐家山天然ダムの形成と防災対応	井良沢 道也 池谷 浩
2009年 (平成21年)	1月	97	・岩手・宮城内陸地震と土砂災害	伊藤 和明
	4月	98	・パキスタン北部地震の地殻変動調査に参加して	近藤 浩一
	7月	99		
	10月	100	・7月中国・九州北部豪雨による山口県防府市での土砂災害緊急調査報告	厚井 高志



主な砂防関連の動きと土砂災害	できごと世相等
<ul style="list-style-type: none"> ・(財)砂防・地すべり技術センター設立30周年 ・米ハリケーン被害 ・パキスタンカシミール地方大地震 	<ul style="list-style-type: none"> ・セントレア空港開港 ・JR福知山線脱線事故
<ul style="list-style-type: none"> ・ジャワ島中部地震 ・ムラビ山噴火 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライブドアショック ・耐震偽装多数発覚 ・WBC日本初代優勝 ・悠仁親王誕生
<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県中越沖地震災害 ・能登半島地震災害 	<ul style="list-style-type: none"> ・サブプライム問題発覚 ・郵政民営化スタート ・食品偽装事件相次ぐ
<ul style="list-style-type: none"> ・四川地震 ・岩手・宮城内陸地震災害 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋葉原通り魔事件 ・北京オリンピック ・リーマンブラザース破綻 ・原油価格暴騰 ・オバマ氏当選米国史上初の黒人大統領
<ul style="list-style-type: none"> ・山口県防府市土石流災害 	<ul style="list-style-type: none"> ・WBC日本連覇 ・北朝鮮ミサイル発射 ・マイケルジャクソン死去 ・民主党与党に

「sabo」とわたし



荒牧 重雄様

ご執筆号：第69号(平成13年)等
ご執筆当時の所属：東京大学名誉教授

機関誌「sabo」で

毎号楽しみにしている記事

火山関係の記事は専門ですので当然期待しています。

「sabo」について 率直なご感想

今後のさらなるご発展を期待します。

今後の「sabo」に 期待すること

最新の情報が得られること、それもくだけた内容のものを期待しています。

「sabo」とわたし



岡本 正男様

ご執筆号：第73号(平成14年)等
ご執筆当時の所属：国土交通省砂防部長

機関誌「sabo」で

毎号楽しみにしている記事

砂防行政や技術の歴史、編集後記、写真(人物、現地、食べ物等)

「sabo」について

率直なご感想

100号おめでとうございます。8ページB5判からスタートした創刊号からvol.99まで砂防図書館で目を通しました。まさにSTCの歴史です。

雑誌編集のプロではないので、苦勞されていることと思います。

③と連動するのですが、気にすることなく好きなように作るのだと思います。『砂防と治水』を協会で発刊してい

ますが、皆さんの知恵を借りながらやっています。日本の砂防の歴史を伝えることが編集にあたっての思いです。

今後の「sabo」に 期待すること

『砂防』と名のつく定期刊物は、砂防協会の『砂防と治水』、砂防学会の『新砂防』、砂防広報センターの『メディア砂防』があります。また、地すべりについても地すべり学会や斜面防災対策技術協会等の機関誌があります。そのほとんどが会委員向けです。「sabo」は会員ではなくSTCが作成するSTCの機関誌です。STCをPRするためのものに徹していただきたいと思います。それが砂防のPRにつながります。

奇を衒うことなく真面目に手作りと思うように好きなように作る、それも楽しみながら作ることが大事かと思えます。

Scientific, Artistic, Brilliant and Originalな「sabo」目指して。

「sabo」は「砂防」ではなく、「エス、イー、ビー、オー」です。期待しています。